

設置計画の概要

事項	記入欄											
事前相談事項	事前伺い											
計画の区分	研究科の専攻の課程変更											
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン ナガサキダイガク 国立大学法人 長崎大学											
フリガナ大学の名称	ナガサキダイガクダイガクイン 長崎大学大学院 (Graduate School of Nagasaki University)											
新設学部等において養成する人材像	<p>① 本研究科は「深い専門知識と技能を授けることにより、創造性豊かな研究能力と高度な教育実践力を備えた人材を育成すること」を目的とし、教職実践専攻では「教職と教科に関する高度な専門的知識と能力を習得し、学校教育における優れた実践能力と課題解決能力を備えた教員」の養成を目指す。</p> <p>② 目指す教員が備えるべき資質・能力は、次のようなものである。</p> <p>(1) 一人ひとりの児童生徒のニーズを理解し、的確に対応できる能力 児童生徒理解を的確に行い、適切な指導・支援ができる能力を育成する。</p> <p>(2) 優れた授業実践力と適切な教科指導力 教育実践に関わる理論に基づいた確かな授業実践力と教科指導力を育成する。</p> <p>(3) 教職と教科に関する知識と能力を生かし、教育改善ができる能力 教職と教科の双方の視点から教育実践を行うことのできる人材を育成する。</p> <p>(4) 高い実践能力と研究能力を備えたスクールリーダーとなれる資質・能力 学校における指導的役割を果たし得る資質と能力を育成する。 また、地域の特色を生かした学校づくりができる人材を育成する。</p> <p>(5) 自らの教育課題を設定し、課題解決に向けて探求し続ける能力 現代の複雑化する教育的諸問題に対処できる資質と能力を追求する自己教育力を育成する。</p> <p>(6) 教育を担う専門職としての使命感と責任感 教職を担う専門職としての高い倫理観を育成する。</p> <p>③ 修了後の進路: 教員</p>											
既設学部等において養成する人材像	<p>① 本研究科は「深い専門知識と技能を授けることにより、創造性豊かな研究能力と高度な教育実践力を備えた人材を育成すること」を目的とし、教職実践専攻では「教職に関する高度な専門的知識と能力を習得し、学校教育において優れた実践能力と資質を備えた人材を養成すること」を、また、教科実践専攻では「専攻する教科に関する高度な専門知識と能力を習得し、教科における実践能力と研究能力を備えた人材を養成すること」を目指す。</p> <p>② 目指す人材像は、次のようなものである。</p> <p>教職実践専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの児童生徒のニーズを理解し、的確に対応できる能力を持った教員 ○高い実践能力を持ち学校現場でリーダーとなれる教員 ○学校の機能を飛躍的に向上させるマネジメント能力を備えた教員 <p>教科実践専攻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究能力を生かして、実践の改善を行える教員 ○教材を効果的に使い、児童生徒の学習に対する納得を得られる教員 ○教科の枠を越えた視点を持ち、それを授業に生かせる教員 <p>③ 修了後の進路: 教員</p>											
新設学部等において取得可能な資格	<p>専修免許状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 (国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語) ・高等学校 (国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 書道, 保健体育, 家庭, 情報, 工業, 英語) ・特別支援学校 (知的障害者, 肢体不自由者, 病弱者, 視覚障害者, 聴覚障害者) <p>①国家資格 ②受験資格取得可能 ③課程修了要件に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が修了の必須条件ではない。</p>											
既設学部等において取得可能な資格	<p>専修免許状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園 ・小学校 ・中学校 (国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語) ・高等学校 (国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 書道, 保健体育, 家庭, 情報, 工業, 英語) ・特別支援学校 (知的障害者, 肢体不自由者, 病弱者, 視覚障害者, 聴覚障害者) <p>①国家資格 ②受験資格取得可能 ③課程修了要件に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が修了の必須条件ではない。</p>											
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			
	学位又は称号					学位又は学科の分野	異動元		助教以上	うち教授		
	教育学研究科 [Graduate School of Education]	教職実践専攻 (専門職学位課程) [Department of Teacher Training and Practice (Professional Degree Program)]	2	38	-	76	教職修士 (専門職)	教員養成関係	平成26年 4月	教職実践専攻 (専門職学位課程)	15	9
										計	15	9
既設学部等の概要	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			
	学位又は称号					学位又は学科の分野	異動先		助教以上	うち教授		
	教育学研究科	教科実践専攻 (修士課程) (廃止)	2	18	-	36	修士 (教育学)	教育学・保育学関係	平成20年 4月	その他	40	29
										計	40	29
									教職実践専攻 (専門職学位課程)	15	9	
									計	15	9	

【備考欄】

【現在】

【平成26年4月】

(教育学研究科)

教職実践専攻

- ・子ども理解・特別支援教育実践コース
- ・学校運営・授業実践開発コース
- ・理科・ICT教育実践コース
- ・国際理解・英語教育実践コース

教科実践専攻

- ・言語文化と社会の教育コース
- ・数理の教育コース
- ・生活と身体 of 教育コース
- ・芸術と文化活動の教育コース

教職実践専攻

- ・子ども理解・特別支援教育実践コース
- ・学級経営・授業実践開発コース

・教科授業実践コース

教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科教職実践専攻 新設)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目	学習指導要領と教育課程Ⅰ	1・2前	2			○			1						
	学習指導要領と教育課程Ⅱ	1・2前		2		○			1						
	小学校学習指導案の作成と研究Ⅰ	1・2前		2		○									兼1
	小学校学習指導案の作成と研究Ⅱ	1・2前		2		○				1					
	グローバル化時代の世界の教育と日本の実践	1・2後		2		○									兼1
	教育の方法と評価Ⅰ	1・2前	2			○				1					
	教育の方法と評価Ⅱ	1・2前		2		○				1					
	授業研究の理論と実践Ⅰ	1・2後		2		○				1					
	授業研究の理論と実践Ⅱ	1・2後		2		○				1					
	児童生徒の理解と指導Ⅰ	1・2前	2			○									兼1
	児童生徒の理解と指導Ⅱ	1・2前		2		○									兼1
	教育相談の理論と実際Ⅰ	1・2前		2		○				1					
	教育相談の理論と実際Ⅱ	1・2前		2		○				1					
	特別支援教育の基礎理論	1・2前		2		○			1						
	学級・学校の経営の実際	1・2後	2			○									兼1
	学校の危機管理	1・2前		2		○									兼1
	複式学級の教育と実際	1・2前		2		○									兼1
	教員の資質と職務Ⅰ	1・2後	2			○				2					
	教員の資質と職務Ⅱ	1・2後		2		○				1					
	教育の情報化の研究と実際	1・2後	2			○									兼2
	ICT活用実践	1・2前		2		○									兼1
小計(21科目)		—	12	30	0				2	5	0	0	0	兼8	—
子ども理解・特別支援教育実践コース科目	生徒指導・キャリア教育の方法Ⅰ	1・2後	2			○				1					
	生徒指導・キャリア教育の方法Ⅱ	1・2前		2		○				1					
	学校カウンセリングの実践法Ⅰ	1・2前		2		○				1					
	学校カウンセリングの実践法Ⅱ	1・2後		2		○				1					
	発達と学習の過程Ⅰ	1・2前		2		○									兼1
	発達と学習の過程Ⅱ	1・2後		2		○									兼1
	特別支援教育の心理学	1・2後	2			○			1						
	特別支援教育のシステム論	1・2後		2		○			1						
	特別支援アセスメント事例研究	1・2後		2			○		1	1					
	発達障害児の理解と支援	1・2後		2		○		○	1	1					
	特別支援教育の生理・病理学	1・2前		2		○			1						
	肢体不自由児の理解と支援	1・2後		2		○			1						
	病弱児の理解と支援	1・2前		2		○									兼1
	重度重複障害児の理解と支援	1・2前		2		○									兼1
	特別支援教育の教育課程・授業論	1・2後		2		○				1					
	特別支援学校・学級経営論	1・2前		2		○				1					
特別支援教育コーディネーター論	1・2後		2		○				1						
健康教育の理論と実践	1・2前		2		○									兼1	
学級集団づくり・ソーシャルスキル教育の指導法	1・2後		2		○			1							
小計(19科目)		—	4	34	0				4	2	0	0	0	兼4	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学級経営・授業実践開発コース科目	学級経営における人間関係の形成Ⅰ	1・2前	2			○			1							
	学級経営における人間関係の形成Ⅱ	1・2前		2		○				1						
	教科経営の実際と授業分析・評価Ⅰ	1・2後	2			○				1						
	教科経営の実際と授業分析・評価Ⅱ	1・2後		2		○				1						
	教材論と学習指導の実際	1・2前		2		○			1							
	カリキュラムの理論と実践	1・2後		2		○			1							
	幼小をつなぐカリキュラム開発と実践	1・2前		2			○									兼1
	道徳教育の理論と実際	1・2後		2		○				1						
	臨床道徳教育の理念と実際	1・2前		2		○										兼1
	地域の特徴と教育の実際Ⅰ	1・2後		2		○			1							
	地域の特徴と教育の実際Ⅱ	1・2後		2		○				1						
	総合的な学習の編成と実践Ⅰ	1・2後		2		○										兼1
	総合的な学習の編成と実践Ⅱ	1・2後		2		○										兼1
	人権教育の理論と実際	1・2後		2		○				1						兼1
	福祉教育の理論と実際	1・2前		2		○										兼1
	国際理解ワークショップ	1・2前		2		○										兼1
	ICT活用と教材研究A	1・2前		2		○				1						兼1
	ICT活用と教材研究B	1・2後		2		○										兼1
小計（18科目）	—	—	4	32	0	—	—	—	2	4	0	0	0	兼8	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教科の授業と指導に関する分野	教科の指導と評価Ⅰ	1・2後	2			○				1							
	教科の指導と評価Ⅱ	1・2後		2		○				1							
	インストラクショナルデザインとマイクロティーチング	1・2前	2			○				1							
	教材論と学習指導の実際	1・2前		2		○				1							
	カリキュラムの理論と実践	1・2後		2		○				1							
	国語科教育の理論と方法	1・2後		2		○										兼1	
	国語科教育の実際と課題	1・2前		2		○										兼1	
	社会科・地理歴史科教育の理論と方法	1・2後		2		○										兼1	
	社会科・公民科教育の理論と方法	1・2前		2		○										兼1	
	理科教育課程と指導計画	1・2前		2		○				1							
	理科授業設計	1・2後		2		○				1							
	音楽科教育実践研究	1・2前		2		○										兼2	
	情操を育む音楽活動実践研究	1・2後		2		○										兼2	
	美術の教材開発 a (心象表現)	1・2前		2		○										兼1	
	美術の教材開発 b (目的表現)	1・2後		2		○										兼1	
	保健科教育の理論と実際	1・2前		2		○										兼1	
	体育の授業研究	1・2後		2		○										兼1	
	技術科教育(材料と加工及び生物育成)の実際と課題	1・2前		2		○										兼3	
	技術科教育(エネルギー変換及び情報)の実際と課題	1・2前		2		○										兼3	
	家庭科授業の研究と開発	1・2前		2		○										兼1	
	家庭科のカリキュラム編成と授業づくり	1・2後		2		○										兼1	
	英語科教育の実際と課題	1・2前		2		○										兼1	
	英語学力評価の理論と方法・技術	1・2後		2		○										兼1	
	計(23科目)		—	4	42	0		—		2	2	0	0	0		兼16	—
	教科授業実践コース科目	伝統的言語文化と国語の特質に関する教科内容研究法	1・2後		2		○										兼3
		授業に活かす国語教材研究法(読む)	1・2後		2		○										兼4
		授業に活かす国語教材研究法(書く)	1・2前		2		○										兼4
		社会認識を育む社会科理解と教材研究(地理歴史分野)	1・2前		2		○										兼4
社会認識を育む社会科理解と教材研究(公民分野)		1・2後		2		○										兼4	
物質とエネルギー分野の教材研究		1・2前		2		○				1	1					兼1	
生命と地球分野の教材研究		1・2後		2		○					1					兼4	
自然環境と科学技術の理解と授業実践課題		1・2後		2		○				1	1					兼3	
器楽表現における教材研究		1・2後		2		○										兼2	
歌唱表現における教材研究		1・2後		2		○										兼3	
合唱・合奏の理解を深める理論と実践		1・2前		2		○										兼2	
楽曲の理解を深める理論と表現		1・2前		2		○										兼2	
美術における心象表現		1・2後		2		○										兼2	
美術における目的表現		1・2前		2		○										兼2	
美術の理論と実践		1・2後		2		○										兼3	
身体運動の理論と実際		1・2前		2		○										兼2	
身体教育の理論と実際		1・2後		2		○										兼2	
電気と情報の教育展開		1・2前		2		○										兼2	
環境とエネルギーの教育展開		1・2後		2		○										兼4	
工作とものづくりの教育展開		1・2後		2		○										兼5	
食生活の理解と実践		1・2後		2		○										兼2	
消費生活の理解と実践		1・2前		2		○										兼1	
住生活の理解と実践		1・2前		2		○										兼2	
家族・子どもの理解と実践		1・2後		2		○										兼2	
英語教育教材の分析と開発		1・2後		2		○				1	1					兼3	
英文法指導のための実践研究		1・2後		2		○				1							
コミュニケーション・ランゲージ・ティーチングの基本と実践		1・2前		2		○										兼1	
授業のための英語文化理解		1・2前		2		○										兼1	
計(28科目)		—	0	56	0		—		2	2	0	0	0		兼43	—	
小計(51科目)		—	4	98	0		—		4	3	0	0	0		兼53	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教育実習科目	学校教育実践実習1(初等)	1・2前		2				○	9	6					
	学校教育実践実習2(初等)	1・2後		2				○	9	6					
	学校教育実践実習3(初等)	1・2後		2				○	9	6					
	学校教育実践実習4(初等)	1・2前		2				○	9	6					
	学校教育実践実習5(初等)	1・2後		2				○	9	6					
	学校教育実践実習1(中等)	1・2前		2				○	9	6					
	学校教育実践実習2(中等)	1・2後		2				○	9	6					
	学校教育実践実習3(中等)	1・2後		2				○	9	6					
	学校教育実践実習4(中等)	1・2前		2				○	9	6					
	学校教育実践実習5(中等)	1・2後		2				○	9	6					
小計(10科目)	—	0	20	0	—	—	—	9	6	0	0	0	0	—	
実践研究指導	学校教育実践研究1	1・2前	1					○	9	6					
	学校教育実践研究2	1・2後	1					○	9	6					
	学校教育実践研究3	1・2前	1					○	9	6					
	学校教育実践研究4	1・2後	1					○	9	6					
	小計(4科目)	—	4	0	0	—	—	—	9	6	0	0	0	0	—
合計(123科目)		—	28	214	0	—	—	—	9	6	0	0	0	兼67	—
学位又は称号	教職修士(専門職)	学位又は学科の分野			教員養成関係										
設置の趣旨・必要性															
I 改組の趣旨・必要性															
(1) 改組の趣旨 教員養成機能を強化し、より質の高い、実践力ある教員を養成するために、専門職学位課程の教職実践専攻(教職大学院)の教科教育分野を拡充、整備する。また、それに伴って、修士課程の教科実践専攻を廃止する。															
(2) 改組の目的 教職実践専攻の教科教育分野を拡充して教科実践力の高度化を図り、同時に地域教育界や学生のニーズに対応する教育課程を整備することで、複雑化・高度化する社会の変化に対応できる、より質の高い、実践力ある教員を養成することを目的とする。															
(3) 改組の必要性 平成14年3月、長崎大学では「教員養成に特化して教育学部を存続させる」ことを評議会において決定し、その基本方針の下、これまで教育学部並びに研究科のカリキュラムや組織の充実を図ってきた。特に平成20年度には、学部においては新課程(情報文化教育課程)を廃止し、大学院では教職実践専攻を設置するとともに、それまでの修士課程を教科実践専攻に改組した。 一方、長崎大学は、中期目標において「修士・博士前期、専門職学位課程においては、各研究科・専攻において育成すべき高度専門職業人像にしたがって教育内容の実質化を進め、高度な実践的能力を有する人材を輩出する」ことを掲げ、中期計画において「各研究科の特色を生かした高度専門職業人像を明確化し、教育の質保証などの観点から、必要に応じて修士・博士前期課程における専攻・コースの改廃、新設や規模の見直しなどを行う」として、教育の質向上のために不断に改革を継続することを目指している。 このような中期目標・中期計画を着実に実施するために、新たに平成22年度より教育学研究科の専攻と入学定員に関する見直しの検討を進めてきた。その過程で、現行の教育学研究科において教科教育分野は、2教科が教職実践専攻に、8教科が教科実践専攻にと二分されており、教科教育分野における学生の教育、指導に課題があること、また、教職実践専攻に入学した現職教員を中心として、教科教育分野の一層の学習を希望する声も聞かれる等、さまざまな課題も明らかとなった。 また、長崎県の「第一期教育振興基本計画(平成21～25年度)」においては、教員の資質向上が重要な課題とされており、現在策定中の「第二期教育振興基本計画(平成26～30年度)」においても、教員の資質向上が重要な課題の一つとされるとともに、今後の主要な取り組みの一つとして「長崎大学教職大学院への教員派遣の拡充」が掲げられている。このような長崎県の課題や方針に対応するために、本教育学研究科は、実践力ある優れた教員を養成するとともに、現職教員の資質向上に積極的に貢献することが求められている。そして、長崎県内の公立小・中・高等学校の現職教員や、長崎大学教育学部・教育学研究科在学学生を対象とした調査では、教職大学院で学びたいとした回答者の多くが、教職大学院で特に学びたい内容として教科教育分野の内容を挙げていることが明らかになった。 さらに、平成24年8月28日の中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」では、教員養成の修士レベル化等において教職大学院の役割が重視され、教科指導力や教科専門の高度化、現代的な教育課題への対応等を含む教職大学院の一層の機能強化が求められている。 そこで、これらの課題を解決するために、教職実践専攻と教科実践専攻とに分かれている現行の教育学研究科の組織を見直し、教職実践専攻の教科教育分野を拡充することにより教科実践力の高度化を図るとともに、さらに地域教育界や学生のニーズに対応する教育課程を整備することで、教職実践専攻の教員養成機能の強化を図り、より質の高い、実践力ある教員の養成を実現することにした。															

(4) 期待される成果

教科教育分野を教職実践専攻（教職大学院）に統合することで、教科実践力の高度化が可能となり、同時に地域教育界や学生のニーズに対応する教育課程を整備することで、複雑化・高度化する社会の変化に対応できる、より質の高い、実践力ある教員を養成することが期待される。また、そのような教員の養成を通じて、地域教育界の発展に貢献することができる。

II 教育課程編成の考え方・特色

(1) 基本方針

教職実践専攻の教育課程編成の基本方針は次のとおりである。

- ① 学生の多様な学習ニーズに対応し、充実した履修指導を通して個性と得意分野を持つ教員を育成することができるようにする。
- ② 授業科目は、専攻共通科目、コース科目、教育実習科目、実践研究指導科目から構成し、修了に必要な単位を47単位とする。
- ③ 専攻共通科目においては、中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」（平成18年7月11日）において体系的に開設すべき授業科目の領域として示された5領域（共通5領域）に加えてICT活用に関する必修科目を加え、ICT活用能力の向上を図る。
また、特別支援教育や国際理解教育については専攻共通科目の選択科目として設定する。
- ④ 理論と実践との架橋を図るために、実習について省察する必修科目として実践研究指導科目「学校教育実践研究1～4」を設け、実習計画の作成、課題や実習内容等の検討、実践研究の計画・実施、実践研究報告書作成を支援する。（現行の時間割外で行われている学生指導を制度化したもの。2週間に1時間以上で半期1単位。ただし、1年プログラム現職教員学生については「学校教育実践研究3、4」のみ必修。）
- ⑤ 「学校教育実践実習1～5（初等）」、「学校教育実践実習1～5（中等）」及び「学校教育実践研究1～4」は、各学生をそれぞれ2人以上の教員で担当、指導する。
- ⑥ コース科目は各コースで2科目（4単位）の必修科目を設定し、残りは選択科目とする。また、各コースで修得すべき最低単位数を設定し、それ以上については専攻共通科目の選択科目や他コース科目を履修することでコース科目の代替とすることを可能とする。
- ⑦ 従来からの1年プログラム、2年プログラム、3年プログラムを継続する。
1年プログラム：現職教員を対象とし、教育実習6単位の履修を免除され、1年間で修了するプログラム。
2年プログラム：2年間で修了する標準プログラム。
3年プログラム：教員免許状を取得していない学士を対象とするもので、3年間の在学期間中に教員免許状取得のための学部専門教育を受け、3年修了時に専修免許状を取得することができるプログラム。

(2) コース編成

本教職実践専攻は、次の3コースから編成する。

- ① 子ども理解・特別支援教育実践コース
子どもたち一人ひとりの個性と教育的ニーズを的確に把握し、適切な指導と支援を行うことのできる高い専門知識と実践力を持つ教員の育成を行う。
特別支援教育について関心がある者、生徒指導・教育相談等に関心がある者を対象とする。
- ② 学級経営・授業実践開発コース
活力ある学級を作り、効果的な授業を実践できるとともに、学級・学校の機能をより向上させるマネジメント能力と、適切な教育課程を編成する力、授業を改善する力等を備えた、高い実践力を持つ教員の育成を行う。
学級経営、教育課程の編成・実施や授業方法等に関心がある者を対象とする。
- ③ 教科授業実践コース
教科内容に対する確かな理解と児童生徒に対する深い理解に基づき、各教科を効果的に指導することができる高い授業実践力を持つ教員の育成を行う。
教科の実践的な指導方法に関心のある者を対象とする。

修了要件及び履修方法	授業期間等	
<p>(修了要件)</p> <p>① 2年(2年以外の標準修業年限を定める学生の履修上の区分にあつては、当該標準修業年限)以上在学すること。</p> <p>② 所定の達成基準を満たし、47単位以上を修得すること。</p> <p>③ 最終レポートの審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>④ 教育職員専修免許状の取得に必要な所定の単位数を修得すること。</p> <p>(履修方法)</p> <p>専攻共通科目、コース科目、教育実習科目、実践研究指導科目から構成し、修了に必要な単位を47単位とする。</p> <p>① 専攻共通科目：20単位以上(共通5領域とICT教育領域の計6領域の必修12単位を含む。また、共通5領域で18単位以上を修得しなければならない。)</p> <p>※現職教員は、各授業科目「Ⅰ」に代えて「Ⅱ」を必修科目とする。</p> <p>② コース科目：13単位(1年プログラムにおいては15単位)以上(必修4単位を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目を含んで所属するコースの科目から最低8単位以上。 ・8単位を越える部分については、専攻共通科目や他コース科目の履修によってコース科目の単位とすることができる。 <p>※現職教員は、各授業科目「Ⅰ」に代えて「Ⅱ」を必修科目とする。</p> <p>③ 教育実習科目：10単位(1年プログラムにおいては6単位免除)(選択必修)</p> <p>※学校教育実践実習1～5のそれぞれについて、(初等)または(中等)のいずれかを履修すること。</p> <p>④ 実践研究指導科目：4単位(1年プログラムにおいては2単位)(必修)</p> <p>(履修科目の登録の上限)</p> <p>学生が履修科目として登録することのできる単位数の上限(以下「上限単位数」という。)は、1年間に40単位とし、1学期当たり25単位とする。ただし、集中講義及び不定期開講の授業科目については、上限単位数に算入しない。</p> <p>なお、学生が前期において履修を登録したすべての授業科目の単位について、次の計算方式によるグレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。)が2.8以上であり、かつ、所属コースにおいて教育上必要があると認めるときは、教務委員会の議を経て、後期において上限単位数を超えて履修科目を登録することができる。この場合における上限単位数は、1年間に50単位とする。</p> <p>GPA = (評価AAの単位数×4 + 評価Aの単位数×3 + 評価Bの単位数×2 + 評価Cの単位数×1 + 評価D(失格、欠席等を含む。)の単位数×0) / 履修登録単位数</p>	1 学年の学期区分	2 学期
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要(事前伺い)

(教育学研究科教科実践専攻 既設)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻共通科目	教育学特論	1・2	2			○									兼1	
	学校教育心理学特論	1・2	2			○									兼3	
	教育実践演習	1・2	2				○		9	1						
	特別支援教育論	1・2		2		○									兼4	
	科学・技術・社会と教育	1・2		2		○									兼1	
	教育データの処理と解析	1・2		2		○									兼1	
	授業の科学	1・2		2		○									兼1	
小計(7科目)	—	—	6	8	0	—	—	—	9	1	0	0	0	兼10	—	
コース共通科目	人文社会基礎総合演習	1・2		1			○		5	3						
	文化的資料活用実践演習	1・2		1			○		5	3						
	社会と言語	1・2		2		○			5	3						
	コミュニケーションの心理学	1・2		2		○									兼1	
	計(4科目)	—	—	0	6	0	—	—	5	3	0	0	0	兼1	—	
言語文化と社会の教育コース	国語科教育	国語科教育特論Ⅰ	1・2	2			○		1							
		国語科教育特論Ⅱ	1・2	2			○			1						
		国語科教育研究Ⅰ	1・2		2		○		1							
		国語科教育研究Ⅱ	1・2		2		○			1						
	国語学	国語学特論Ⅰ	1・2	2			○									兼1
		国語学特論Ⅱ	1・2		2		○									兼1
		国語学研究	1・2		2		○									兼1
	国文学	国文学特論Ⅰ	1・2	2			○		1							
		国文学特論Ⅱ	1・2		2		○									兼1
		国文学研究Ⅰ	1・2		2		○		1							
		国文学研究Ⅱ	1・2		2		○									兼1
	漢文学	漢文学特論Ⅰ	1・2	2			○			1						
		漢文学特論Ⅱ	1・2		2		○			1						
		漢文学研究	1・2		2		○			1						
	書道	書写書道教育特論	1・2	2			○		1							
		書写書道教育研究	1・2		2		○		1							
	専修共通	実践授業研究	1・2	2				○		3	2					
		教材開発	1・2	2				○		1	1					
		課題研究	1・2	4				○		1						
計(19科目)	—	—	20	20	0	—	—	3	2	0	0	0	兼5	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
コース 共通科目	英語文献講読法Ⅰ	1・2		2			○		1							
	英語文献講読法Ⅱ	1・2		2			○		1							
	データ解析法	1・2		2			○		1							
	科学実験法	1・2		2			○		1	1						
	計(4科目)	—	0	8	0				4	1	0	0	0	0	0	—
生活と身体 の教育コース	技術科 教育	技術科教育特論Ⅰ	1・2	2			○		1							
		技術科教育特論Ⅱ	1・2	2			○		3							
		技術科教育演習Ⅰ	1・2		2			○		1						
		技術科教育演習Ⅱ	1・2		2			○		1						
	材料・ 加工	木材加工学特論	1・2		2			○					1			
		材料工学特論	1・2		2			○								兼1
		材料工学演習	1・2		2			○								兼1
	機械	機械材料学特論	1・2		2			○								兼1
		エネルギー変換工学特論	1・2		2			○		1						
	電気	機械工学演習	1・2		2			○		1						
		電子工学特論	1・2		2			○		1						
	情報	電子工学演習	1・2		2			○		1						
		情報工学研究	1・2		2			○		1						
	裁量 専修 共通	情報学研究	1・2		2			○		1						
		情報応用学研究	1・2		2			○		1						
	専修 共通	生物育成学特論	1・2		2			○								兼1
		実践授業研究	1・2	2				○		1						
		教材開発	1・2	2				○		1						
		課題研究	1・2	4				○		3						
計(19科目)	—	12	28	0				3	0	0	1	0	0	兼2	—	
家庭専修 免許プログラム	家庭科 教育	家庭科教育学特論Ⅰ	1・2	2			○		1							
		家庭科教育学特論Ⅱ	1・2		2		○								兼1	
		家庭科教育学演習Ⅰ	1・2		2					1						
		家庭科教育学演習Ⅱ	1・2		2			○							兼1	
	家庭 経営学	生活経営学特論	1・2		2			○		1						
		生活経営学演習	1・2		2			○		1						
		家庭科内容学特論	1・2		2			○		2	2					
		家庭科内容学演習	1・2		2			○		2	2					
	被服学	被服学特論	1・2		2			○			1					
		被服学演習	1・2		2			○			1					
	食物学	食物学特論	1・2		2			○			1					
		食物学演習	1・2		2			○			1					
	住居学	住居学特論	1・2		2			○		1						
		住居学演習	1・2		2			○		1						
	保育学	保育学特論	1・2		2			○								兼1
		保育学演習	1・2		2			○								兼1
	専修 共通	実践授業研究	1・2	2				○		3	2					
		教材開発	1・2	2				○		1						
		課題研究	1・2	4				○		2						
計(19科目)	—	10	30	0				3	2	0	0	0	0	兼1	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
生活と身体 の教育コース	保健体育科教育	保健体育科教育学特論Ⅰ	1・2	2		○				1								
	保健体育科教育学特論Ⅱ	1・2		2		○											兼1	
	保健体育科教育学演習Ⅰ	1・2		2			○			1								
	保健体育科教育学演習Ⅱ	1・2		2			○										兼1	
	体育学	体育原論特論	1・2		2		○			1								
		体育原論演習	1・2		2			○		1								
		体育心理学特論	1・2		2		○			1								
		体育心理学演習	1・2		2			○		1								
		スポーツ社会学特論	1・2		2		○											兼1
		スポーツ社会学演習	1・2		2			○										兼1
		保健体育科研究法	1・2	2			○			2								
	運動学	身体運動論特論	1・2		2		○			1								
		身体運動論演習	1・2		2			○		1								
		コーチング学特論	1・2		2		○											兼1
		コーチング学演習	1・2		2			○										兼1
		運動生理学特論	1・2		2		○			1								
		運動生理学演習	1・2		2			○		1								
		健康体力論特論	1・2		2		○											兼1
		健康体力論演習	1・2		2			○										兼1
	学校保健	学校保健学特論	1・2		2		○			1								
		学校保健学演習	1・2		2			○		1								
	専修共通	実践授業研究	1・2	2				○		4	1							
		教材開発	1・2	2				○		1	1							
		課題研究	1・2	4				○		4								
	計(24科目)	—	12	38	0	—	—	—	5	1	0	0	0	0	0	0	兼5	—
	小計(66科目)	—	34	104	0	—	—	—	11	3	0	1	0	0	0	0	兼8	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	芸術文化史特論	1・2		2		○			4	1						
	芸術教育特論	1・2		2		○			2							
	計(2科目)	—	0	4	0	—			6	1	0	0	0	0	—	
芸術と文化活動の教育コース	音楽科教育	音楽科教育特論Ⅰ	1・2	2		○				1						
		音楽科教育特論Ⅱ	1・2	2		○			1							
		音楽科教育研究Ⅰ	1・2		2			○			1					
		音楽科教育研究Ⅱ	1・2		2			○		1						
	声楽	声楽特論Ⅰ	1・2		2		○			1						
		声楽特論Ⅱ	1・2		2		○			1						
		声楽研究Ⅰ	1・2		2			○		1						
		声楽研究Ⅱ	1・2		2			○		1						
	器楽	ピアノ特論Ⅰ	1・2		2		○			1						
		ピアノ特論Ⅱ	1・2		2		○			1						
		ピアノ研究Ⅰ	1・2		2			○		1						
		ピアノ研究Ⅱ	1・2		2			○		1						
		管弦楽器特論Ⅰ	1・2		2		○								兼2	
		管弦楽器特論Ⅱ	1・2		2		○				1					
		管弦楽器研究Ⅰ	1・2		2			○							兼2	
		管弦楽器研究Ⅱ	1・2		2			○			1					
	作曲	作曲特論Ⅰ	1・2		2		○			1						
		作曲特論Ⅱ	1・2		2		○			1						
		作曲研究Ⅰ	1・2		2			○		1						
		作曲研究Ⅱ	1・2		2			○		1						
	指揮法	指揮法特論	1・2		2		○								兼1	
	音楽学	音楽学特論	1・2		2		○									兼1
		音楽学研究	1・2		2			○								兼1
		実践授業研究	1・2	2				○		1						
	専修共通	教材開発	1・2	2				○		1						
		課題研究	1・2	4				○		3						
計(26科目)		—	12	42	0	—			4	1	0	0	0	兼5	—	
美術専修免許プログラム	美術科教育	美術科教育特論Ⅰ	1・2	2		○			1							
		美術科教育特論Ⅱ	1・2	2		○									兼1	
		美術科教育研究Ⅰ	1・2		2			○		1						
		美術科教育研究Ⅱ	1・2		2			○		1						
	絵画	絵画特論	1・2		2		○									兼1
		絵画研究	1・2		2			○								兼1
	彫刻	彫刻特論	1・2		2		○			1						
		彫刻研究	1・2		2			○		1						
	デザイン	デザイン特論	1・2		2		○			1						
		デザイン研究	1・2		2			○		1						
	工芸	工芸特論	1・2		2		○			1						
		工芸研究	1・2		2			○		1						
	美術理論	美術理論・美術史特論	1・2		2		○				1					
		美術理論・美術史研究	1・2		2			○			1					
	専修共通	実践授業研究	1・2	2				○		2						
		教材開発	1・2	2				○		2						
		課題研究	1・2	4				○		2						
	計(17科目)	—	12	24	0	—			4	1	0	0	0	兼3	—	
	小計(45科目)	—	24	70	0	—			7	3	0	0	0	兼8	—	
	合計(192科目)	—	108	284	0	—			29	10	0	1	0	兼43	—	
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係										

教育課程等の概要 (事前伺い)														
(教育学研究科教職実践専攻 既設)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻 共通 科目	学習指導要領と教育課程Ⅰ	1・2	2			○			1					
	学習指導要領と教育課程Ⅱ	1・2		2		○			1					
	教育課程の編成・学習指導案作成実習Ⅰ	1・2		2				○		4				兼1
	教育課程の編成・学習指導案作成実習Ⅱ	1・2		2				○		1				兼1
	教科の指導と評価Ⅰ	1・2	2			○				1				
	教科の指導と評価Ⅱ	1・2		2		○				1				
	児童生徒の理解と指導Ⅰ	1・2	2			○								兼1
	児童生徒の理解と指導Ⅱ	1・2		2		○								兼1
	生徒指導・教育相談実習Ⅰ	1・2		2				○	1	4				兼2
	生徒指導・教育相談実習Ⅱ	1・2		2				○		2				兼1
	教育相談の理論と実際Ⅰ	1・2	2			○				1				
	教育相談の理論と実際Ⅱ	1・2		2		○				1				
	教育の方法と評価Ⅰ	1・2	2			○				1				
	教育の方法と評価Ⅱ	1・2		2		○				1				
	複式学級の教育と実際	1・2	2			○								兼1
	情報教育の研究と実際Ⅰ	1・2	2			○								兼1
	情報教育の研究と実際Ⅱ	1・2		2		○								兼1
	学校の経営の実際	1・2	2			○								兼1
	学校の危機管理	1・2	2			○								兼1
	学校経営・学級経営実習Ⅰ	1・2		2				○		4				兼1
	学校経営・学級経営実習Ⅱ	1・2		2				○		1				兼1
	教員の資質と職務Ⅰ	1・2	2			○				2				
	教員の資質と職務Ⅱ	1・2		2		○				1				
小計 (23科目)		—	20	26	0	—	—	—	2	6	0	0	0	兼6
子ども 理解・ 特別 支援 教育 実践 コース	生徒指導・キャリア教育の方法Ⅰ	1・2		2		○				1				
	生徒指導・キャリア教育の方法Ⅱ	1・2		2		○				1				
	学校カウンセリングの実践法Ⅰ	1・2		2		○				1				
	学校カウンセリングの実践法Ⅱ	1・2		2		○				1				
	発達と学習の過程Ⅰ	1・2		2		○								兼1
	発達と学習の過程Ⅱ	1・2		2		○								兼1
	特別支援教育の基礎理論	1・2		2		○			1					
	特別支援教育のシステム論	1・2		2		○			1					
	特別支援教育の心理学	1・2		2		○			1					
	発達障害児の理解と支援Ⅰ	1・2		1		○			1					
	発達障害児の理解と支援Ⅱ	1・2		1			○			1				
	特別支援アセスメント事例研究(基礎実習・発展実習)	1・2		2			○		1	1				
	特別支援教育の生理・病理学	1・2		2		○			1					
	肢体不自由児の理解と支援	1・2		2		○			1					
	病弱児の理解と支援	1・2		2		○								兼1
	重度重複障害児の理解と支援	1・2		2		○								兼1
	特別支援教育の教育課程・授業論	1・2		2		○				1				
	特別支援学校・学級経営論	1・2		2		○				1				
	特別支援教育コーディネーター論	1・2		2		○				1				
	健康教育の理論と実践Ⅰ	1・2		2		○								兼1
健康教育の理論と実践Ⅱ	1・2		2		○								兼1	
学級集団づくり・ソーシャルスキル教育の指導法Ⅰ	1・2		2		○			1						
学級集団づくり・ソーシャルスキル教育の指導法Ⅱ	1・2		2		○			1						
学校教育実践実習Ⅰ	1・2	2					○		1					
学校教育実践実習Ⅱ	1・2		2				○		1					
小計 (25科目)		—	4	44	0	—	—	—	4	2	0	0	0	兼4

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学校運営・授業実践開発コース	カリキュラムの理論と実践Ⅰ	1・2		2		○									兼1
	カリキュラムの理論と実践Ⅱ	1・2		2		○			1						
	地域の特徴と教育の実際Ⅰ	1・2		2		○			1						
	地域の特徴と教育の実際Ⅱ	1・2		2		○				1					
	総合的な学習の編成と実践Ⅰ	1・2		2		○									兼1
	総合的な学習の編成と実践Ⅱ	1・2		2		○									兼1
	授業研究の理論と実践Ⅰ	1・2		2		○				1					
	授業研究の理論と実践Ⅱ	1・2		2		○				1					
	道德教育の理論と実際	1・2		2		○				1					
	臨床道德教育の理念と実際	1・2		2		○									兼1
	人権教育の理論と実際Ⅰ	1・2		2		○				1					
	人権教育の理論と実際Ⅱ	1・2		2		○				1					
	幼小をつなぐカリキュラム開発と実践Ⅰ	1・2		2			○								兼1
	幼小をつなぐカリキュラム開発と実践Ⅱ	1・2		2			○								兼1
	教育評価の方法研究Ⅰ	1・2		2		○				1					
	教育評価の方法研究Ⅱ	1・2		2		○				1					
	学級経営の理論と実際Ⅰ	1・2		2		○			1						
	学級経営の理論と実際Ⅱ	1・2		2		○				1					
	学校教育実践実習Ⅰ	1・2	2					○	1	1					
	学校教育実践実習Ⅱ	1・2	2					○	1	1					
小計（20科目）		—	4	36	0	—		2	4	0	0	0	0	兼5	—
理科・ICT教育実践コース	理科教育課程と指導計画	1・2		2		○			1						
	理科授業研究A	1・2		2		○									兼1
	理科授業研究B	1・2		2		○			1						
	理科教材開発A	1・2		2		○			1						兼1
	理科教材開発B	1・2		2		○									兼1
	理科指導法研究	1・2		2		○									兼1
	理科授業設計	1・2		2		○			1						
	自然環境研究A	1・2		2		○									兼1
	自然環境研究B	1・2		2		○									兼1
	科学技術研究A	1・2		2		○				1					兼1
	科学技術研究B	1・2		2		○			1						
	ICT活用実践Ⅰ	1・2		2		○									兼1
	ICT活用実践Ⅱ	1・2		2		○				1					兼1
	ICT活用実践応用	1・2		2		○									兼1
	情報科学研究	1・2		2		○									兼1
	教育情報処理研究	1・2		2		○									兼1
	認知情報科学研究	1・2		2		○									兼1
	インターネット技術研究	1・2		2		○									兼1
	理科学習における評価と実践	1・2		2		○									兼1
	教育に活かす「宇宙」	1・2		2		○									兼2
学校教育実践実習Ⅰ	1・2	2					○	1							
学校教育実践実習Ⅱ	1・2	2					○	1							
小計（22科目）		—	4	40	0	—		2	1	0	0	0	0	兼11	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際理解・英語教育実践コース	英語科教育の実践と課題Ⅰ	1・2		2		○									兼1
	英語科教育の実践と課題Ⅱ	1・2		2		○									兼1
	英語学力評価の理論と方法・技術	1・2		2		○									兼1
	コミュニケーション・ランゲージ・ティーチングの基本と実践Ⅰ	1・2		2			○								兼1
	コミュニケーション・ランゲージ・ティーチングの基本と実践Ⅱ	1・2		2			○								兼1
	アカデミック・ライティング・スキルの実践	1・2		2			○								兼1
	英語科教育論	1・2		2		○				1					
	英語教育教材の分析と開発Ⅰ	1・2		2			○		1						
	英語教育教材の分析と開発Ⅱ	1・2		2			○								兼1
	授業のための英語文化理解Ⅰ	1・2		2			○								兼1
	授業のための英語文化理解Ⅱ	1・2		2			○								兼1
	英語実践力を向上させるための読解方法Ⅰ	1・2		2			○								兼1
	英語実践力を向上させるための読解方法Ⅱ	1・2		2			○								兼1
	英文法指導のための実践研究Ⅰ	1・2		2			○								兼1
	英文法指導のための実践研究Ⅱ	1・2		2			○								兼1
	国際理解ワークショップⅠ	1・2		2		○									兼1
	国際理解ワークショップⅡ	1・2		2		○									兼1
	学校教育実践実習Ⅰ	1・2	2					○		1					
	学校教育実践実習Ⅱ	1・2	2					○		1					
	小計（19科目）	—		4	34	0	—	—	—	1	1	0	0	0	兼13
合計（109科目）	—		36	180	0	—	—	—	9	6	0	0	0	兼35	—
学位又は称号	教職修士（専門職）		学位又は学科の分野			教員養成関係									